

## 平成19年3月期 第1四半期の財務・業績について

四半期純利益は前第1四半期比10.2%増の192億円(キャッシュベースは同比4.9%増の245億円)  
 これに関し、当行社長のポルテは以下のとおりコメントしております。

「厳しい市場環境においても、当行は事業及び収入の多様化により、利益を伸ばすことができました。

第1四半期の業績は、通期業績予想を達成可能な水準となっております。また、第1四半期における新規投資や新しい取り組みにより、更なる事業拡大と利益成長の機会をもたらすものと考えております。」

業務粗利益は前第1四半期比5.6%増の681億円、非金利収入比率は63.9%

実質業務純益は前第1四半期比2.6%増の308億円

クレジットコスト考慮後の実質業務純益は前第1四半期比8.6%増の270億円

経費、経費率は僅かに増加(経費率:前第1四半期53.5% 当第1四半期54.8%)

貸出金は前連結会計年度末比増加(前連結会計年度末比+1,542億円)

リテール預金は引き続き拡大(個人預金3兆2,092億円、前連結会計年度末比+1,275億円)

不良債権比率(単体)は0.98%に低下

### 1. 損益の概況

[連結]

(単位:億円)

	当第1四半期 (平成18年6月期) <3カ月間>	前第1四半期 (平成17年6月期) <3カ月間>	(参考) 平成18年3月期	平成18年5月23日 公表通期予想 (平成19年3月期)
業務粗利益*1	681	645	2,737	
資金利益	245	193	822	
その他	435	451	1,914	
経費*1	373	344	1,359	
実質業務純益*1	308	300	1,377	
経常利益	206	158	714	820
四半期(当期)純利益	192	174	760	840
(参考)キャッシュ調整後ベース(*2) 四半期(当期)純利益	245	233	1,019	1,070
不良債権処理額	37	51	301	

(参考)ビジネスライン別損益状況\*1[連結]

(単位:億円)

	当第1四半期 (平成18年6月期) <3カ月間>	前第1四半期 (平成17年6月期) <3カ月間>	(参考) 平成18年3月期	
インスティテューショナル・ バンキング	業務粗利益	244	255	1,166
	経費	104	97	391
	実質業務純益	139	157	775
コンシューマー・アンド コマースファイナンス	業務粗利益	318	271	1,197
	経費	170	154	604
	実質業務純益	147	116	593
リテール・バンキング	業務粗利益	105	97	424
	経費	99	92	348
	実質業務純益	5	4	76
ALM/経営勘定 /その他	業務粗利益	13	21	51
	経費	1	0	16
	実質業務純益	15	21	67

\*1~上記の区分表記は経営管理上のものであり、基本的に単体(経営健全化計画ベース)と同様の基準で作成しております。

\*2~当第1四半期分は、四半期純利益からのれんに係る償却額及び無形資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたものであります。なお前第1四半期分及び平成18年3月期分は、(株)アプラス・昭利リース(株)の連結に関するものに限定しています。

平成19年3月期第1四半期(当第1四半期)及び平成18年3月期第1四半期(前第1四半期)の財務・業績の概況に関する上記の記載数値につきましては、公認会計士及び監査法人による監査を受けておりません。

## 2. 1株当たり数値[連結]

	当第1四半期 (平成18年6月期)	前第1四半期 (平成17年6月期)	(参考) 平成18年3月期
1株当たり四半期(当期)純利益	14 15 円 銭	12 83 円 銭	53 16 円 銭
同キャッシュベース	18 08	17 21	72 16
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	9 46	8 65	37 75
同キャッシュベース	12 09	11 60	50 55
1株当たり純資産*	378 37	341 22	380 20
潜在株式調整後1株当たり純資産*	434 81	394 75	421 62

\* ~ 当該純資産額につきましては、新株予約権及び少数株主持分を控除して計算をしております。

## 3. ROA、ROE[連結]

	当第1四半期 (平成18年6月期)	前第1四半期 (平成17年6月期)	(参考) 平成18年3月期
ROA*1			
四半期(当期)純利益ベース	0.8	0.8	0.8
同キャッシュベース	1.1	1.1	1.2
ROE*2			
四半期(当期)純利益ベース	15.0	15.3	14.9
同キャッシュベース	19.1	20.5	20.3
潜在株式調整後ROE*3			
四半期(当期)純利益ベース	9.0	8.8	9.3
同キャッシュベース	11.6	11.8	12.4
修正ROE*4			
キャッシュベース四半期(当期)純利益	16.7	18.5	18.8

\*1 ~ (期首総資産 + 期末総資産) / 2 を計算上、分母として用いております。なおキャッシュベース当期純利益を用いて算出する際の分母は、のれん及び無形資産を除いた総資産の期首・期末平均であります。

\*2 ~ 算式：
$$\frac{\text{四半期} \times [\text{当期} \text{純利益} - \text{期末優先株式配当額}]}{(\text{期首の普通株式に係る純資産額} + \text{期末の普通株式に係る純資産額}) / 2}$$

\*3 ~ 算式：
$$\frac{\text{四半期} \times [\text{当期} \text{純利益}]}{[(\text{期首純資産の部合計} - \text{期首新株予約権} - \text{期首少数株主持分}) + (\text{期末純資産の部合計} - \text{期末新株予約権} - \text{期末少数株主持分})] / 2}$$
 \* ~ 日割り年換算

\*4 ~ 算式：
$$\frac{\text{キャッシュベース四半期} \times [\text{当期} \text{純利益}]}{[(\text{期首純資産の部合計} - \text{期首新株予約権} - \text{期首少数株主持分}) - \text{期首のれん} - \text{期首無形資産} \times (1 - \text{実効税率})] + [(\text{期末純資産の部合計} - \text{期末新株予約権} - \text{期末少数株主持分}) - \text{期末のれん} - \text{期末無形資産} \times (1 - \text{実効税率})] / 2}$$

(分子) 四半期(当期)純利益から、のれんに係る償却額及び無形資産償却とそれに伴う繰延税金負債取崩を除いたもの。

(分母) 純資産の部合計から、新株予約権、少数株主持分、のれん及び無形資産とそれに伴う繰延税金負債を除いたものの期首・期末平均

## 4. 財務状況[連結]

(単位: 億円)

	当第1四半期末 (平成18年6月末) (A)	前期末 (平成18年3月末) (B)	比較 (A)-(B)	前第1四半期末 (平成17年6月末) (C)	比較 (A)-(C)
資産の部	96,966	94,050	2,916	84,122	12,844
金銭の信託	4,479	4,561	82	3,139	1,340
有価証券	15,409	14,944	465	15,482	73
貸出金	42,417	40,875	1,542	34,075	8,342
リース・割賦売掛金*1	8,299	8,250	49	7,527	772
無形資産*2	660	681	21	749	89
のれん*2	2,214	2,266	52	2,379	165
支払承諾見返	8,082	8,134	52	10,533	2,451
負債の部	85,862	82,878	2,984	75,562	10,300
預金・譲渡性預金	44,559	40,717	3,842	33,999	10,560
債券・社債	11,460	13,169	1,709	12,797	1,337
純資産の部*3	11,104	8,553	2,551	8,004	3,100

\*1 ~ 「リース」は、(四半期)連結貸借対照表の「有形固定資産」及び「無形固定資産」に、「割賦売掛金」は、(四半期)連結貸借対照表の「その他資産」に、それぞれ含まれております。

\*2 ~ 「無形固定資産」に含まれております。

\*3 ~ 前期末(平成18年3月末)及び前第1四半期末(平成17年6月末)の数値は、「資本の部」の数値を記載しております。

## 5. 金融再生法開示債権[単体]

(単位: 億円、%)

	当第1四半期末 (平成18年6月末) (A)	前期末 (平成18年3月末) (B)	比較 (A)-(B)	前第1四半期末 (平成17年6月末) (C)	比較 (A)-(C)
開示不良債権	419	425	7	476	58
総与信残高(末残)	42,538	41,290	1,248	35,958	6,580
総与信残高比 /	0.98	1.03	0.05	1.32	0.34